

『藤農便り』 第 22 号

宮本茶園 ヘルミッシヨネルズ宮本

※「藤農便り 第 21 号」については、本会のホームページ WEB 版ナマステからご覧になれます！

長い梅雨の後は猛暑の 8 月、相模原 市民がつくる総合雑誌アゴラに「佐野川茶誕生と足柄茶北端産地の未来」という文章を投稿しました。連日の草刈りで 20 時就寝、起床してから畑に出るまでの時間を使ってパソコンに向かいました。原稿では藤野に移住し茶栽培に取り組むまでを振り返り、佐野川茶製品普及活動について紹介させてもらいました。10 月に刊行されたアゴラ No.94 には、文部科学事務次官だった前川喜平さんを相模湖に招いた講演録も掲載されています。教育問題の様々な話題の中で、教員免許更新制に触られています。政権政党・自民党では「組合活動にうつつをぬかすような教師は免許更新制で落とすんだ」という議論が行われ、文科省内の反対を押し切ってむりやり導入されたいきさつを話されました。1986 年新採用時から 2013 年失職するまで日教組に加入していた私が茶農家になるきっかけの教員免許更新制、国会前の神奈川高教組隊列で 1 週間座り込んで法案阻止できなかった私なりのけじめをつけた免許更新拒否と失職、遠い昔の思い出です。

・3 年目の佐野川茶

今年の一番茶収穫は、藤野茶業部役員が各茶園の新芽育ち具合を調べて摘採計画を立て、機械操作 2 名・摘採袋持ち 1 名を基本チームにして人手を確保しました。茶葉摘採は 2~3 チームで作業し、全ての茶園で摘採開始から串川荒茶工場搬入までを 3 時間以内に行うことができました。延べ作業人数 99 名・作業日数 10 日間、役員は皆勤で疲労困憊ですが、共同作業の成果は如実に表れています。10 月の部会で報告された今年度足柄茶品評会審査結果では、大河原部長が 23 位です。21 位までが入賞だったので、部長の好成績は佐野川茶の希望です！

私は和田茶園の茶葉を「宮本茶園謹製 佐野川茶」に製品加工し、1 年目に使った竹嶋さんの段々茶畑のラベルデザインパッケージを復活させました。和田茶園は有機肥料を施し、ワラ・大豆殻等有機資材を畝間に敷き込む茶草場農法で栽培しています。茶来末の佐々木社長や木村普及員に荒茶を見ていただき、販売価格は 100g 入袋 1500 円に設定しました。農薬を使わない有機栽培で価格に見合う茶葉を生産しますので、応援お願いします。佐野川茶製品は 7 月から新茶を販売しています。JA 藤野園芸センターの佐野川茶コーナーにそろう踏み

した 4 製品、2018 年 10 月 1 日佐野川茶が初めて農協店舗に並んだ事を思い起こすと感無量です！



8 月 5 日茶来末の佐々木社長を佐野川にお招きし、JA 藤野支店で「佐野川茶ブランド構築」をテーマに講演をしていただきました。佐々木社長は佐野川茶を、①相模原市緑区佐野川地区で栽培されたお茶 ②農薬をあまり使用せず安心安全である ③農業技術センター木村先生の技術提供を受け、適切に栽培された生葉を加工したものの ④茶来末の 12 微細分類製茶法の技術を用い、火入れ焙煎加工され衛生的に袋詰めかこうしたもの とブランド規定されました。藤野茶業部 3 年間の取り組みを評価し、「陣馬山麓にある『日本の里 100 選』の景観を守り、そこで生産される佐野川茶を相模原市の名産品にしていましよう」と励ましていただきました。



講演会では JA 神奈川つくと協力しての 6 次産業化体制作り・相模原市ふるさと納税返礼品登録や地元企業との連携・大学や研究機関との製品開発等、具体的な取り組み方法のアドバイスもいただきました。私には作業着での畑仕事が性に合っていますが、時々はスーツを着ての営業活動もしなければと考えています。

・夏秋の茶仕事

梅雨明け直前の夏整枝後は除草作業が主な仕事になりますが、和田茶園は冬の間猪の掘った穴を埋めながら雑草の根を取り除き、ツル草が本当に少なくなりました。新規就農1年目の夏、小池前部長から「畑か雑草だらけだぞ！どうするのだ？」としばしば叱られた事を思い出し、努力は必ず報われるのだと実感しています。私はこれまで春肥と秋肥しか茶園に施してきませんでしたが、木村先生の夏整枝講習会で「来年高品質の茶葉を収穫するために、皆さん夏肥を施しましょう」という指導がありました。1反当り20袋の鶏糞施肥を指示され、120袋購入して6反の茶園に施肥しました。和田茶園は40袋、猛暑の中担ぎ上げる勇気がなく、地主の小澤さんから自治会の運搬機を借りて運びました。120袋の施肥は5日間かかりましたが、今夏は体を壊すこともなく、気力に体力が追い付いてきたようです！



9月中旬からの秋肥作業では足柄茶に出荷する上岩茶園に尿素と豚糞、佐野川茶用の和田茶園に油粕と豚糞を施しました。木村先生は「年間の窒素分は1反当り40kg施肥が望ましい」と営農指導されるので、今年は教えを達成する事ができました。施肥後は耕運機で畝間を深耕して、夏肥・秋肥をていねいに株元へすき込みました。10月秋整枝講習会后、各茶園の整枝をしましたが窒素分40kgの効果は絶大で、10/月24日製枝した和田茶園では秋が深まってもなお新しい芽が伸びています。台風上陸はなかったものの雨降りが多かった今秋、作業日程は遅れがちでしたが、共同作業で藤野茶業部全茶園の秋整枝は10月末に無事終了、冬を迎えます。



・第42回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

コロナ禍の影響で実行委員会での打ち合わせができずに開催が危ぶまれた追悼会ですが、地元スタッフが集まり実施を前提に検討を重ねました。4年前津久井やまゆり園事件の起きた7月26日、コロナ感染防止のために規模を縮小し献花追悼のみで実施する事を決め、準備を進める事になりました。私は正式に献花用生花栽培を担当し、自宅で育苗したひまわりとアスターを花卉畑に植え付けました。各種子は2回に分けて播きましたが、7月26日当日の第一回播種ひまわりの花は終わりかけ、第2回播種の花は咲き始めてした。アスターの開花は僅かです。追悼会当日に開花ピークを作る栽培技術は修業が必要です。梅雨空の早朝、生花スタッフ総出できれいに咲いたひまわりを選んで献花用に400本を切りました。



相模湖交流センターの会場では、津久井の里山にある自然素材を使ったモニュメントと献花台を担当スタッフが設営しています。佐野川で収穫した切花は、飾花と献花に手際よく分けられ会場を彩ります。今年は津久井やまゆり園で献花をされた神奈川県知事や相模原市長が合同追悼会に参加されました。駐車場系りの仕事が終わり終了間近の会場に入ると、献花台にたくさんのひまわりがさざげられています。ダム建設工事犠牲者の霊を慰める切花栽培、担当してよかったです。



追悼会後の8月下旬、神奈川県朝鮮中高級学校の生徒たちが相模ダムを訪れた課外学習中に、建設工事で命を落とした朝鮮半島出身者らを追悼する石碑の看板が傷付けられている事がわかり、マスコミ報道されました。「当時植民地であった朝鮮半島」という一文の「植民地」の部分を読めないように削られた行為は、日本のアジア侵略の歴史をねじ曲げるものです。許しがたい事にネットのコメントには、「アチラの自称学校」等民族学校で学ぶ生徒たちの人権を否定する汚い言葉があふれています。日本の敗戦から75年、憲法違反の日本の軍隊は空母を保有し、今や「敵基地攻撃」を主張するようになりました。侵略戦争に駆り出される若者が戦場で殺し合う事が現実になった時、正しい歴史を学ばなかった日本人の行く末が心配です。

・雑穀栽培活動 2020 その2

茶収穫と花卉植え付け作業が一段落した6月下旬、雑穀の播種を行いました。木俣師と「植物と人々の博物館」メルマガ 68～70号で報告されている学大コカ・コーラプロジェクト雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ復活企画を進めています。ピーボは2009年学大創立60周年にINCHがつくった発泡酒で、生協等で販売され好評を得た製品です。学大は1949年新制大学として発足しましたが、その系譜をたどると1873年に設立された東京府小学教則講習所にさかのぼります。2023年が創基150周年という事でピーボ復活が企画され、佐野川には山口さんのクラフトビール工房があり卒業生の私がホップと雑穀を栽培しているので、お話しをいただきました。木俣師が退官されてから疎遠になった学大ですが、卒業生として母校の記念企画に参加できるのは嬉しい限りです。

ピーボ原料のキビ・アワを確実に収穫するため、西原の中川さんを訪ねて防鳥ネット設置について教を請いました。支柱にキュウリ栽培用パイプを使うと効率よくネットが張れ、10mm 網目のネットは雀の侵入を防ぐそうです。昨年まで使っていた20mm 網目のネットは雀がすり抜けて入り込み、支柱の竹切り作業も負担だったので、さっそく農協の営農経済課にネットとパイプを発注しました。

8月25日、木俣師と黒澤君に手伝ってもらいネット

張りをしました。前日に支柱パイプを設置したので、ネットをパイプの上を広げて所々を麻紐で固定する作業は短時間で終わりました。木俣師と一緒に畑仕事したのは職業科の農場実習以来で、楽しかった学大の授業を久し振りに思い出しました。おかげでキビやアワは雀の襲撃を受けず、無事収穫する事ができました。



※佐野川雑穀見本園では、木俣師や西原の中川さんからいただいた種子を継いでいます。雑穀栽培に興味ある方は、【090-2205-8476 宮本 透】までご連絡ください。佐野川をご案内し、種子をお分けします。佐野川茶を藤野土産にご購入いただければ幸いです。